

平成 30 年度第 2 回志布志市まちづくり委員会 会議録

日時：平成 31 年 1 月 18 日（金） 午前 10 時

進行 中尾係長 開会のあいさつ

【市長挨拶】 下平市長あいさつ

【委員紹介】 中尾係長から紹介

【協 議】 議事進行：井上会長

ア) 本庁舎移転基本方針説明：樺山企画政策課長

○質疑応答

Q 1：本庁舎を志布志に移転することでどのような効果があり、志布志市がどのように発展するのか。また移転の費用については有利な財源を活用するとあるが、ある程度の金額は示せないか。

A 1（市長）：合併して 13 年目を迎えるが、合併以前の旧町の税収は志布志町が約 21 億円、松山町が約 2 億 7 千万円、有明町が約 8 億円であった。以前、地方行財政に詳しい鹿児島大学の教授に本庁舎が志布志支所にあった場合と有明庁舎にあった場合の様々なデータ提供を依頼したことがあったが、今後少子高齢化が進む中で、他の官公署や交通アクセスなど、市街地が形成されている場所に本庁舎が置かれていないと、まちは衰退していくと言われた。今のままでいくと 5 年、10 年後の衰退は目に見えているということであった。そのような理由で、できるだけ早く本庁舎機能を志布志支所に移して、ヒト・モノ・カネ・情報の交流を促進し、経済の活性化につなげていきたい。出張等で様々な都市を訪れるが、人が動くことで消費が生まれ、消費によって経済の好循環が生まれ、まちが成り立っていくと実感した。加えて、志布志市の場合、志布志港の発展が大きな軸となり、この軸を基本に志布志地域、有明地域、松山地域の特徴をどう活かして、まちの活性化につなげていくかが、大きな鍵となる。市長自らがビジョンを示して、市民の皆様にしかりと説明し、理解していただくためにも市民説明会を通して丁寧に説明していきたいと考えます。

移転費用については、副市長室の設置や執務室の間仕切りなどで 1 千万円程度を見込んでいるが、議場の改修等については、現在積算中である。また空調関係等の改修もあるが、これは移転には関係なく改修が必要な経費であるため、整理していきたい。費用に無駄がないよう精査していく。

Q 2：合併して 13 年が経過し、志布志への庁舎移転については、これまで議会でも幾度となく質問がなされても話題になるだけであったが、トップが変わることで急激に動き出したことに驚いている。もし、次のトップが変わり、方針が変わるようであれば、それまでが無駄になり市民も大変である。本庁舎移転に関しては、5 年、10 年、20 年後も方針を変えずに目標に向かって行ってほしいと思うが、どう考えているか。

A 2（市長）：トップは目指すビジョンをしかりと持ち、市政運営を行わなければならない。当然、議会にも示して進めなければならないが、合併 13 年目にして、ようやく本庁舎移転

という大きな政策の方向性を示した。トップには権利と権限が与えられているが、職員や市民の皆さんに対して透明性を保ちながら、公平・公正に行使しなければならない。職員は私の言葉と行動を絶えず見ている。市民の皆さんも含め、自分の姿勢をしっかりと見ていただきながら進めていく。今後もこの方針が変わることはない。

Q 3 : 市長が言うように人の動きが大事であると考え。市街地のホテルに勤務しているが、2、3年前までの宿泊客の動向は土日が3、4割程度の利用だったが、去年あたりから7、8割となり、現在は常に満杯状態になっている。銀座街も以前は閑散としていたが、今は人の往来が目立ってきている。人が動くとき色んな所に良い影響をもたらしていると感じる。ホテルの客層も企業関係が多い。アピアの横にも新しくホテルが建設されているが、企業等の活発な動きによる効果ではないかと考える。今後港の整備が進めば、工事関係者の利用も増えてくるのではと思う。大変有り難いことではあるが、一方で商店街がシャッター通りの状況である。港湾商工課が移転することで、商店街の活性化にも力を入れてほしい。

A 3 (市長) : 商店街の活性化も人と人との交流が大事。最近、カレー店が3軒オープンしたが、このことで、商店街活性化の波及効果につながればと考える。新たにホテルも建設されているが、5年、10年先の志布志市を見据えての投資ではないかと思う。12月末には海外向けに飼料を輸出する会社と立地協定を締結し、1月には農産物加工会社と協定を締結した。事前にトップセールスを行ったが、港や道路網が協定締結の大きな強みとなった。

Q 4 : 今回、管理部門等の移転を行うわけだが、5年後に本庁全体を移転するとしている。現在の志布志支所では手狭なようであるが、その対応をどう考えているのか。また、駐車場の確保についてもどう考えているのか。

A 4 (市長) : 5年後というのはあくまでも目安である。できるだけ早めに志布志支所に移転したいと考えている。スペース的な問題については、隣の保健所も想定しているが、民間施設の活用も考えている。駐車場についても同様に民間の土地利用を検討していく。

Q 5 : 選ばれた市長の公約として、下平市長が公約に掲げた本庁舎移転を確実に実行されていることを高く評価する。公約実現のために努力している市長をはじめ職員を応援していくのが市民の役割であり、そのことが市民のためにもなり、大変有り難く思う。以前、県外の友人から有明本庁周辺には食事をする場所がなかったという話を聞き残念に思った。まちの発展や活性化は企業や商売をされる方々の努力があってこそだと思うが、それらの方々に対してどのような支援策があるのか。

A 5 (市長) : 私は職員に対して常に現場主義を徹底するよう指示している。これが支援の始まりで現場に入って実態をつかむ、ニーズを知ることが重要。支援策は中に入り込んで、職員が察知し、事業のスクラップアンドビルドを行いながら進めて、真に必要な事業かどうかを見極めながら行っていく必要がある。

Q 6 : 3町が合併してから、志布志支所の福祉課、市民税務課窓口が混雑しているようである。その要因の一つに通山、押切地区の住民が志布志支所で手続きをされるということが考えられる。本庁舎移転に伴い、窓口職員の人数を増やすことはできないか。

A 6 (市長) : 福祉、保健課については組織再編を考えているが、職員の定員適正化計画の観点

からも今後はグループ制で対応していくしかないと考えている。現在、係の業務をグループ制にして取組んでいるが、係そのものをまとめて、業務に携わる人員を増やすというものである。先進事例も参考にしながら進めていき、あわせてワンストップサービスについても検討していきたい。

Q 7 : 水産業については、志布志がメインであるが、港の整備も進み、大型船も多く入港している。そのような中、漁船とのトラブルも多く発生してきている。今回の方針では2年後の短期計画で耕地林務水産課の移転は含まれておらず、5年後の中期計画で移転する予定となっている。早い段階で志布志支所に移転する考えはないか。

A 7 (市長) : 今回の短期計画では今年の6月議会で本庁舎の位置を変える条例を提案するため、管理部門の優先的な移転と港湾商工課については要望書の提出もあったことから、あわせて移転する形となっているが、中期計画の5年はあくまでも目安であるので、早めに対応できるものは早めに移転していきたいと考えている。

イ) 市民説明会の概要説明 : 樺山企画政策課長

○質疑応答

Q 8 : 参加者や参加地域は限定されるのか。

A 8 : どなたでもどこでも自由に参加できる。

Q 9 : 説明会資料には、今後の志布志港や高速道路の整備状況と市長の想いが良く伝わっている。資料の中でも特に長期計画の新庁舎建設については、どこに建設されるのか市民の関心が高いのではないかと思う。これまで出された質問に対する市長の想いが伝われば、市民も納得すると思うが、移転費用も気になる場所なので、しっかりとした説明を行っていただきたい。

Q 10 : 市民説明会には、まちづくり委員も参加した方が良いのか。

A 10 (市長) : 可能であれば参加していただきたい。市民説明会のほかにも要請があれば、市長と語る会でも説明していきたい。

Q 11 : 市長の公約である本庁舎移転については、市長自らの熱い想いを語っていただき、十分理解した。市民説明会においても市長自身で説明すれば十分理解は得られると思うので、多くの方が参加した形で説明するようお願いしたい。

Q 12 : 議会とは協議中という話であったが、6月に決定するのか。

A 12 (市長) : 6月議会に提案するということである。議員の3分の2以上の同意が得られれば決定となる。

(委員長)

今回示された本庁舎移転基本方針については、個人的な見解として反対ではないが、本庁舎の移転に伴う駐車場対策が大きな課題であり、市民に対して十分な説明が必要と考える。市民説明会のほか、個別の問合せについてもそれぞれ理解を深めてもらうようお願いしたい。